

# ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科  
本荘 卓

## 教育の責任

大きく「法律系科目」と「キャリア系科目」の2つの分野を担当しています。

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
日本国憲法	1-4	20	講・演	選択	総合教養科目群(教養科目)
法律の基礎	1-4	24	演習	選択	総合教養科目群(教養科目)
プレゼンテーション	2-4	3	演習	選択	入門科目群(共通科目)
ロジカルシンキング	2-4	4	演習	選択	入門科目群(共通科目)
民法1	2-4	25	講・演	選択	専門基礎科目群(地域デザインコース)
民法2	2-4	9	講・演	選択	専門基礎科目群(地域デザインコース)
行政教養1	2・3	5	演習	選択	専門基礎科目群(地域デザインコース)
時事問題研究	2・3	52	講・演	選択	進路支援科目群(キャリア形成科目)
業界研究1	2-4	15	演習	選択	進路支援科目群(キャリア形成科目)
業界研究2	2・3	8	演習	選択	進路支援科目群(キャリア形成科目)
文章理解応用1	2・3	10	講・演	選択	進路支援科目群(キャリア形成科目)
文章理解応用2	2・3	18	講・演	選択	進路支援科目群(キャリア形成科目)
就職のための基礎知識 A	3	170	講・演	必修	進路支援科目群(キャリア形成科目)

## 教育の理念

現代科学においては、論証の形式として「仮説演繹法」が用いられるのが一般的です。これは、手持ちのデータから仮説を立て、その仮説から実験や観察が可能な予言を導き出し、さらに実験や観察によってその予言を確かめ、その仮説の確からしさを検証・反証するという方法です。

先行き不透明で将来予測が困難とされる「VUCAの時代」においては、想定外の変化が起こった際にも柔軟に対応できるような基礎的・汎用的能力の養成が不可欠ですが、そのためにはこの「仮説演繹法」を用いた課題解決に積極的に取り組んでいくことが極めて有効であると考えます。

こうした考え方の下、「インストラクショナルデザイン(教育設計学)」の知見に基づいて授業をデザインし、その成果を検証しつつ次の授業実践への改善点を見つけ続けたいと考えています。

## 教育の方法

### 1. 法律系科目―「応用から基礎へ」

従来の法学教育は、学生自身の予習を前提としたうえで、一方的な講義形式によるのが一般的でした。ところが、アメリカ国立訓練研究所(National Training Laboratories)における調査では、講義による半年後の平均学習定着率はわずか5%にすぎません。これに対して、視聴覚教材による学習では20%、グループ討論では50%、体験学習では75%となっており、アクティブラーニング(能動

的学習)による学習効果の高さが顕著となっています。

そこで、法学教育においても、従来の「基礎から応用へ」という考え方を抜本的に見直し、弁護士による出前授業や裁判所・検察庁などの協力を得た裁判員模擬裁判、判例などを素材とした設例に対する学生同士のディスカッションなどを中心に据えた「応用から基礎へ」というカリキュラムに転換した授業実践をしていきたいと考えています。

## 2. キャリア系科目——「デザイン思考」

民間企業や地方自治体などの協力を得ながら、「仮説演繹法」との親和性が高いビジネスフレームワークの1つである「デザイン思考」を取り入れた課題解決型学習(PBL)プログラムを授業実践の目玉とします。

「デザイン思考」とは、デザイナーが新たなものを考えるときの思考プロセスをビジネスの世界に援用したイノベーション創出のための方法論をいい、学生がこの「デザイン思考」を用いた現実社会の課題解決に取り組むことで、大学での理論的学修と密接に関連しながら、そうした理論的学修では到達しえない実践的体験を行うことをめざします。

## 教育の成果 および 今後の目標

「授業改善計画報告書」を参照。

## 参考資料

1. 鈴木克明「我が国の教育工学研究とインストラクショナルデザイン研究の今後に寄せて」日本教育工学会論文誌 43 巻 3 号 (2019 年)
2. 戸田山和久『科学哲学の冒険——サイエンスの目的と方法をさぐる』NHK出版 (2005 年)
3. 泉谷閑示『反教育論』講談社現代新書 (2013 年)
4. ジャスパー・ウ (見崎大悟訳)『実践スタンフォード式デザイン思考』インプレス (2019 年)